

# 都市再生整備計画(第2回変更)

しもかさい  
下笠居地区

香川県 たかまつ 高松市

平成21年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	香川県	市町村名	高松市	地区名	シモカザイ 下笠居地区	面積	250 ha
計画期間	平成	19	年度	～	平成	21	年度
交付期間	平成	19	年度	～	平成	21	年度

<b>目標</b>							
大目標 市民との協働による災害に強いまちづくりの推進							
目標1 平成16、17年度の台風による水害および近年、大災害が予想されている南海地震等による被害を未然に防止するため、防災設備を整える。							
目標2 災害時に被害を最小限に抑えるためには住民相互の助け合いや日頃の防災活動が必要不可欠であることから、地域住民が自主的かつ主体的に参画して地域の共通課題に取り組む地域コミュニティの活性化を図る。							

<b>目標設定の根拠</b>							
まちづくりの経緯及び現況							
下笠居地区は、五色台山麓から北にかけて広がる高松市西端にあり、北は瀬戸内海、南は五色台に挟まれた山間地域であり、平地と共に集落が分散している。県道が東西を貫通し、西部県道沿いにはコミュニティセンター、小中学校、幼稚園、保育所が集中している。南部の山地には良好な自然環境が残っており、果樹栽培が盛んである。							
また、自治会加入率の減少にもみられるように、近年、地域の連帯感が薄れ、地域としての力が脆弱していることから、同地区では平成15年に自治会等の各種団体による地域コミュニティ協議会が設立され、地域みずからのまちづくりに取り組んでいる。							
本地区は海山に挟まれた地理的条件から水害に弱く、県下の多くの地域で広範囲に渡って高潮や波浪による浸水被害が発生した平成16年の台風16号、同じく大雨によって河川越流や土砂崩れによる災害が発生した同年の台風23号の際には、生島湾、亀水湾および亀水川流域において浸水被害が発生した。また、今世紀前半には南海地震の発生が予想されており、防災施設の早急な整備が求められているほか、ハード整備では防ぐことのできない被害を少しでも減らすため、ハザードマップの作成・配付、コミュニティ活性化による防災活動の促進が必要である。							
課題							
台風や地震から住民の生命・財産を守る防災施設については、防潮堤、水門、逆流防止弁、水位監視カメラを整備し、消防屯所、耐震性貯水槽、集落を緊急車両が通り抜けられる4m道路を整備しなければならない。また、現在のコミュニティセンターは建築年度(昭和44年)からして老朽化が進んでおり、耐震性に欠ける疑いもあることから、新たに建築基準法による耐震性を満たした施設整備が必要である。							
また、防潮堤の整備については平成16年の台風16号の潮位実績を含めた既往最高潮位に対して安全を確保できるよう整備するものであり、津波に関してはハード面のみで完全に安全を確保することは困難である。また、ハード施設を整備するには多大な時間と費用がかかり、限られた予算で効果的な減災体制を確立しなければならないことから、ハザードマップの作成・配付、コミュニティ活性化による防災活動等のソフト対策を重要な災害対策として展開し、自助、共助、公助による災害に強いまちづくりに取り組む必要がある。							
将来ビジョン(中長期)							
本計画においては、高潮による浸水被害を防止するため、平成16年の台風16号を含んだ既往最高潮位を基準とした防潮堤を亀水湾に整備するが、同じく香川県が策定した津波・高潮対策整備推進アクションプログラムにおいて整備が必要な施設として位置づけられている生島湾の防潮堤の早急な整備が求められるとともに、大雨による亀水川越流による浸水被害を防止することが今後の検討課題である。							
また、「災害は忘れたことになってくる」と言われるとおり、ハード施設整備を補うために重要である地域住民の防災活動は継続が困難であることから、ハザードマップの作成・配付、防災知識の普及および継続的なコミュニティの活性化に努めることにより、防災活動を促進するものである。							

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
下笠居地区コミュニティ協議会によるコミュニティセンターの利用者数	人/年	下笠居地区コミュニティ協議会による単年度におけるコミュニティセンター集会所等の利用者数。	地域コミュニティ活動の拠点施設として活用されることにより、地域コミュニティの活性化に繋がる。	177人	平成18年度	212人	平成21年度
自主防災組織の加入率	%	自主防災組織が結成された自治会への加入世帯数を自治会加入全世帯数で割って算定する。	地域コミュニティ活動の基盤として、自主防災組織の加入を促進することにより、防災活動を推進する。	79.4% (1,957世帯)	平成18年度	90% (2,218世帯)	平成21年度
既往最高潮位(高松港2.46m(160年確立規模))に対する浸水面積	m	香川県が策定した津波・高潮対策整備推進アクションプログラムに基づく既往最高潮位(高松港2.46m(160年確立規模))に対する浸水予想面積を採用。	高潮による浸水被害の軽減を図るため防潮堤を整備し、その効果を計るため、整備前後の既往最高潮位に対する浸水面積を比較する。	312,000㎡	平成18年度	254,000㎡	平成21年度

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>生島湾、亀水湾および亀水川流域は平成16年の台風16号および23号等の際、高潮や河川越流による浸水被害が発生し、今世紀前半には南海地震が発生すると言われていたことから、ソフト対策と併せて高潮や地震による災害を防止するため、耐震性貯水槽、水門、防潮堤、逆流防止弁、避難施設案内板、ケーブルテレビネットワークカメラ等の防災施設を整備し、防災機能の向上を図る。</p>	<p>方針に合致する主要な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路整備(道路)</li> <li>耐震性貯水槽設置(地域生活基盤施設)</li> <li>水門改修(地域生活基盤施設)</li> <li>防潮堤整備(地域生活基盤施設)</li> <li>逆流防止弁設置(地域生活基盤施設)</li> <li>避難施設案内板整備(地域生活基盤施設)</li> <li>ケーブルテレビネットワークカメラ整備(地域生活基盤施設)</li> <li>消防屯所整備(関連事業)</li> </ul>
<p>各種防災施設では完全に安全を確保することが困難であることからハード施設の整備と併せ、ハザードマップの作成・配付、防災知識の普及および地域住民による防災活動の促進等ソフト対策を展開することにより、自助、公助、共助による減災体制の確立を目指すことから、防災活動を始めとするまちづくり、生涯学習および地域保健福祉、スポーツレクリエーション等を含めた地域におけるふれあいや交流を図る拠点施設であるコミュニティセンターを整備する。なお、同施設は高松市地域防災計画で位置づけられた指定避難所にもなることから、建築基準法に基づく耐震性を満たした施設として新たに整備を行うものである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下笠居コミュニティセンター整備事業(高次都市施設)</li> <li>まちづくりアドバイザー設置事業(関連事業)</li> <li>地域まちづくり交付金事業(関連事業)</li> </ul>
<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 交付期間中の計画の効果的な管理について 交付期間中においては、事業を円滑に進め、目標へ向けて確実な効果をあげるため、地域のコミュニティ協議会等関係機関との連携を図り、事業進捗の推進・把握に努める。</li> <li>■ 継続的な地域コミュニティ活動の活性化 高潮や地震等から地域住民やその財産を守るためには、ハード施設の整備に加え、それだけでは防ぎきれない被害を少しでも減らすため、地域住民による継続的な防災活動が重要である。本地区では地域コミュニティ協議会が中心となって、地域のコミュニティプラン(まちづくり計画)を策定し、それに基づいて防災活動を始めた継続的なまちづくり活動を図るものである。</li> <li>■ 各事業の役割</li> </ul> <p><b>【道路整備】</b> 本道路は本地区唯一の主要地方道と集落とを結ぶものであるが、幅員が狭く、橋が老朽化しており、緊急車両による主要地方道の通り抜けが困難である。このようなことから、災害時の迅速な救助活動や避難行動を可能にするため、狹隘道路を4mに拡幅する。</p> <p><b>【水門改修】</b> 衛生処理センター北側遊水池は、平成16年の台風23号時に排水ポンプの能力を超えた雨水の流入があり、施設周辺地域が冠水したことから、今後大雨時等に災害防止施設の遊水池としての機能の維持回復を図るため、遊水池の北西部に設置している弓弦羽水門を改修するものである。</p> <p><b>【逆流防止弁設置工事】</b> 本箇所は、高潮時に雨水排水路から海水が逆流し、浸水被害が発生していることから、排水路に逆流防止弁を設置し、逆流による浸水被害の軽減を図るものである。</p> <p><b>【ケーブルテレビネットワークカメラ整備事業】</b> 亀水川河口一体は平成16年の台風による高潮や大雨により浸水被害が発生していることから、災害時における迅速な避難行動を図るため、インターネット等で常に水位を監視することができるカメラを設置する。なお、本カメラの映像はインターネットのほか、災害時にはケーブルテレビによる災害情報の発信にも活用するものである。</p>	





# 下笠居地区(香川県高松市)整備方針概要図

目標	大目標 市民との協働による災害に強いまちづくりの推進	代表的な指標	下笠居地区コミュニティ協議会のセンター利用者数(人/年)	(H18)177→(H21)212
	目標1 平成16、17年度の台風による水害および近年、大災害が予想されている南海地震等による被害を未然に防止するため、防災設備を整える。		自主防災組織の加入率%(世帯)	(H18)79.4(1,957)→(H21)90(2,218)
	目標2 災害時に被害を最小限に抑えるためには住民相互の助け合いや日頃の防災活動が必要不可欠であることから、地域住民が自主的かつ主体的に参画して地域の共通課題に取り組む地域コミュニティの活性化を図る。		既往最高潮位に対する浸水面積(㎡)	(H18)312,000→(H21)254,000

